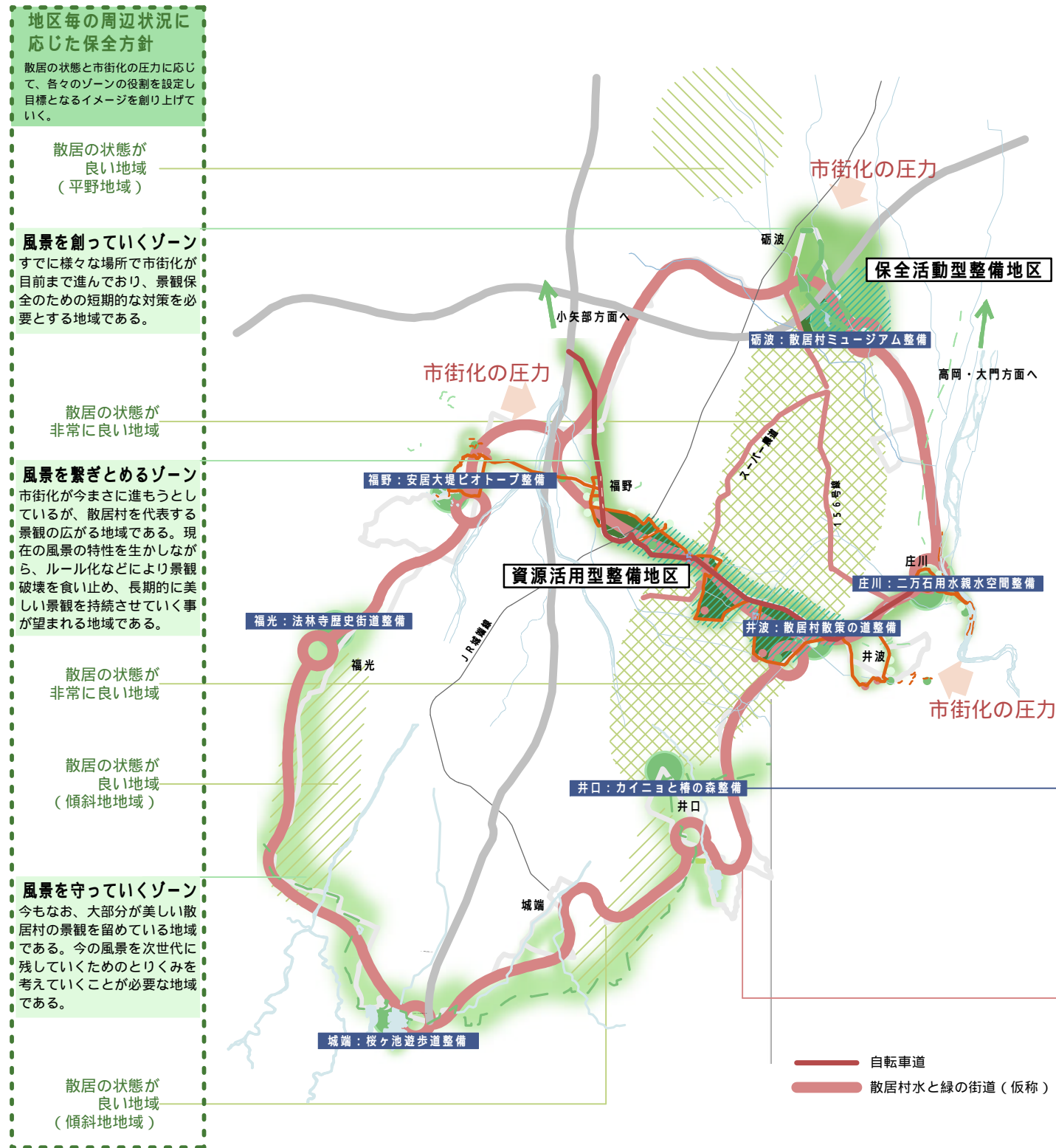


計画の全体フレームのイメージ

これまでの検討を踏まえると、「散居村の状態が非常に良い地域」のうち、市街化の圧力が高まっている砺波地区と福野・井波地区の2地区を、散居村を保全していくためのルールづくり等のモデルとなるエリア（散居村保全モデルエリア）として位置づけ、それぞれの特色により、保全活動型、資源活用型として整備していくことが効果的である。併せて、地域拠点として7つの拠点を整備しネットワーク化していく。



**散居村保全モデルエリア**

2つの整備地区はそれぞれ性格が違い、異なるルールづくりのモデルとすることで、全体のルールづくりへ展開させる事ができること、情報発信、学習体験の機能を相互補完できることから、これらの2つの地区を散居村保全モデルエリアとして全体の核にしていく。

**砺波地区** . . . . .  
**保全活動型整備地区**

「散居の状態が非常に良い地域」の北端に位置する。散居地域研究所やボランティア団体等の人材・実績を活用し、砺波平野の散居村保全活動や情報発信等の拠点となる施設を、砺波市が計画している地域拠点（散居村ミュージアム）や調整池（他事業で実施）と一体的に整備していく。

**福野 井波地区** . . . . .  
**資源活用型整備地区**

「散居の状態が非常に良い地域」の中央に位置し、福野町と井波町にまたがる。自転車道（サイクリングロード）を軸に、散策路により、散居村に点在する巖浄閣、高瀬神社、高瀬遺跡等の地域資源を結び、見て楽しむ地区として、巖浄閣の魅力向上、ポケットパーク等の整備を行う。

**地域拠点の設定**

地域拠点は 住民参加に基づき、景観保全や自然との共生、歴史文化資源の活用等に配慮して整備する施設で、各市町村における21世紀の農村づくりのモデルとして位置づけられる。また、「散居村保全モデルエリア」と連携することによって、当該市町村に散居村保全活動など住民参加による農村づくりを拡げていく。

**ネットワーク化**

散居村保全モデルエリアと地域拠点を、散策道や散居村水と緑の街道（仮称）（国道、県道、市町村道、農道、サイン計画）によってネットワーク化し、またソフト面でも保全活動、広報活動、教育プログラムのネットワーク化を図っていくことにより、散居村保全活動を砺波平野に面的に展開していく。

**全体フレームの構成**

これまでの様々な調査や分析によって設定された全体フレームの構成

**景観構造の確認**

- 地勢
- 水系
- 散居景観の状態
- 市街化の状態

**地域資源の確認**

- 自然資源
- 産業資源
- 農業資源
- 公共資源
- 生活資源
- 歴史資源

**保全方針の設定**

- 風景を創っていくゾーン
- 風景を繋ぎ止めるゾーン
- 風景を守っていくゾーン

**散居村保全モデルエリアの設定**

- 保全活動型整備地区
- 資源活用型整備地区

**地域拠点の設定**

- 1 散居村ミュージアム
- 2 安居大堤ピオトープ
- 3 法林寺歴史街道
- 4 桜ヶ池遊歩道
- 5 散居村散策の道
- 6 二万石用水親水空間
- 7 カイニョと椿の森

**ネットワーク化**

- 国道、県道、市町村道、農道、サイン計画によるネットワーク
- 保全活動、広報活動、教育プログラムのネットワーク